

認知症になっても大丈夫！安心して暮らせる町づくりを 「当事者に聞く会」を開催

6月23日(日)午後1時30分より3時頃まで琴平町総合センターにて、認知症当事者渡辺康平氏の講演会が開催されました。最近「認知症」への関心が高まっているためか多くの方が参加してくれました。渡部さんは5年前に脳血管性認知症と診断され、当初はショックで大変落ち込み何も手につかず、うつ状態の日々が3～4ヶ月間続きました。食欲もなく体重は24kg落ちたそうです。しかし、奥様の力が大きな支えとなり少しずつ自分を取り戻していきました。奥様のお話によると次のような事を実行されたそうです。



- ・認知症であることを周囲に知ってもらう。(特に近所の人達にはオープンにする。)
- ・自分で出来ることはできるだけしてもらう。(ボランティアなど生き生きサロンの手伝い)
- ・外出をする。渡辺さんは以前から碁会所に通っていたそうです。ここには友達も大勢いてその方達が明るく支え普通に接してくれたそうです。
- ・家庭では居心地のよい環境をつくる。食事に気を配る。(栄養など)
- ・プライドを傷つけないように接する。→ 自分を取り戻していくようになる。

講演会では、渡辺さんは奥様や西香川病院の看護師さんと一緒に入って来られましたが、堂々としていてとても認知症の当事者とは信じられませんでした。目標を持ってしっかりと歩いておられる渡辺さんの生き方や、大きな支えになっている奥様と西香川病院の方々に感動しました。

渡辺さんのプロフィール

昭和17年生まれ(76歳)、観音寺市在住。高校卒業後日本電信電話公社(現NTT)の機械課職員として勤務。50歳から観音寺民商に勤め、長年地域でボランティアや自治会の世話役などで活躍。72歳で脳血管性認知症と診断される。2017年6月から三豊市立西香川病院の非常勤相談員として勤務。自分らしく生きるために認知症の啓発のため精力的に県内外で講演活動をしている。

金子みすゞさんの詩の中から（7）

浜の石

浜辺の石は玉のよう、
みんなまるくてすべっこい。

浜辺の石は飛び魚か、
投げればさっと波を切る。

浜辺の石は唄うたい、
波といちにち唄ってる。

ひとつひとつの浜の石、
みんなかわいい石だけど、

浜辺の石は偉い石、
皆して海をかかえてる。



矢崎節夫「金子みすゞ ころの宇宙」より

前回の詩は「土」でした。そして今回は「石」です。
こういった無機質な物にも、みすゞさんのやさしいまなざしが
注がれています。
最後の一行がいいですね。もう一度始めから読んでみたくになりますね。

ご案内

核兵器のない世界のために

「原爆と人間」写真展

（入場無料）

日時 8月2日（金） 12時～17時
3日（土） 9時～17時
4日（日） 9時～15時

（3日と4日13時～戦争体験を聞く会…語り部募集）

会場 ACT ことひら

主催 「原爆と人間」写真展実行委員会（連絡先 75-5876）

後援 琴平町、琴平町教育委員会

お問い合わせの上多数ご来場下さい。

